



福祉作業所の商品開発に取り組む 「クッキープロジェクト」

様々な団体との協働

障がい者支援



NPO
法人

ハンズオン埼玉
(さいたま市浦和区)

学校等

埼玉ベルエポック
製菓専門学校
(さいたま市大宮区)
その他・・・福祉作業所11か所

障がい者・福祉作業所スタッフ・シェフ・デザイナー・学生・NPOスタッフ・主婦・会社員など、いろいろな人が一緒に福祉作業所の商品開発・販路開拓を応援する「クッキープロジェクト」を実施。

レシピの開発には製菓専門学校の学生・講師が中心となって取り組み、埼玉発祥のサツマイモ「紅赤」を使ったクッキーが完成。

2010年11月には販売会「クッキーバザール」を開催。クッキーは好評で、完売した。

協働のきっかけ

市民参画型のまちづくりを目指すNPO法人が呼びかけ、クッキーづくりを通じて障がい者と健常者が「まぜこぜ」となる仕掛け「クッキープロジェクト」を3年前に立ち上げた。

2010年からは実行委員会形式になり、NPO法人は事務局を担当し、製菓専門学校はクッキーのレシピ開発や打合せの会場を提供した。

協働のメリット

NPO
法人

専門学校の学生が商品開発に参加したことで、企画に若い人の意見が取り入れられ、魅力的な商品のアイデアが生まれた。

また日頃、実社会との接点が少ない福祉作業所の人には、プロのシェフなどの仕事の厳しさを目のあたりにする機会が設けられて良かった。



専門学校生がレシピを開発

学校等

県内で福祉と製菓の専門学校を運営しているので、このクッキープロジェクトでは、両校の強みを生かして地域貢献に取り組めた。

また、いろいろな条件や制限がある商品開発に学生が携われることができ、良い経験になった。

さらに福祉の分野でパティシエが役に立てることを知り、学生にとっても大変勉強になりました。

苦労・工夫したこと

NPO
法人

これまではNPO法人の事業として、助成金を使って運営していたが、活動を継続していく上で、資金調達が課題だった。

2010年は、趣旨に賛同する地元企業の広告協賛や、個人からの寄附などを募り、実行委員会形式での運営を試みた。

学校等

学生は、淡泊な紅赤の風味をひき出そうと、2か月以上も試行錯誤して、20種のレシピを考えた。手が不自由な障がい者でも作れるレシピにしようと工夫した。

キーワード

食品開発 専門学校生の参加